

マニュアル2 地震から身を守る

「地震大国日本」といわれるように、日本では東日本大震災や阪神・淡路大震災など大きな地震が起きています。埼玉県は比較的災害の少ない県とされていますが、今後大きな地震に襲われる可能性はあるのでしょうか。また、大地震が起きたとき私たちはどうすればよいのでしょうか。

●埼玉県における地震の可能性

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分に、牡鹿半島の東南東 130 km 付近の三陸沖を震源とし、震源域が岩手県沖から茨城県沖に及ぶ（長さ約 450km, 幅約 200km）マグニチュード 9.0 の想定を超える巨大地震が発生しました。

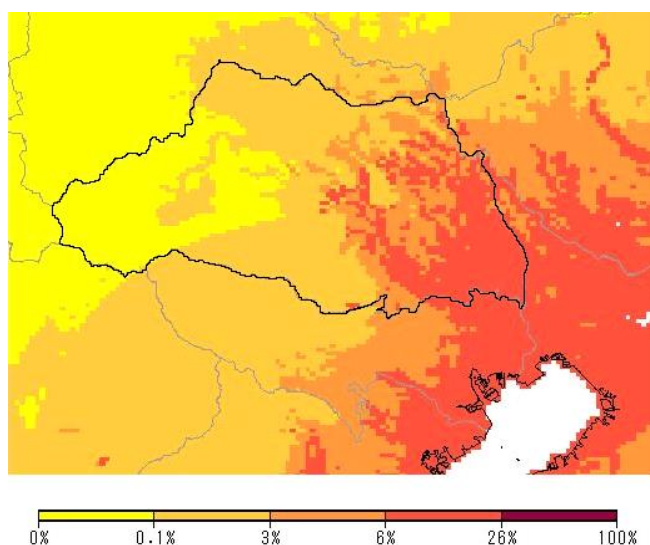
この地震の規模は観測史上国内最大規模、世界でも見ても 1900 年以降に発生した地震では 4 番目の規模となりました。被害も、死者 15,858 人、負傷者 3,057 人にのぼり（平成 24 年 5 月 1 日現在）、明治時代以降では関東大震災に次ぐきわめて深刻なものとなりました。

一方、埼玉県を含む南関東地域では、マグニチュード（M）7 クラスの直下型地震の発生が迫っているといわれています（「南関東地域直下の地震」と呼ばれる。）

図 1 は、南関東地域で過去に発生した主な地震を示したものです。関東大震災（関東大震災）のような M8 クラスの巨大地震の周期は、およそ 200 年から 300 年と指摘されています。その間に M7 クラスの直下型地震が数回発生していることが分かります。関東大震災から約 90 年、M7 クラスの地震の発生は、刻一刻と近づいていると考えられます。

この地震によって、震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率を示したのが図 2¹です。

図 2 今後 30 年以内に南関東地域で発生する M7 程度の地震で震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図（赤色の部分）



¹ (独) 防災科学技術研究所の地震動予測図データを編集・加工

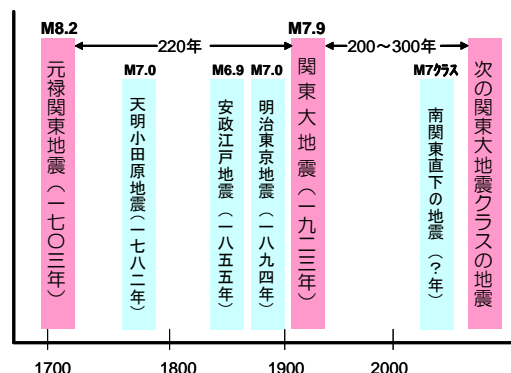


図 1 南関東地域の主な被害地震

※震度 6 弱では、立っていることが難しく、壁のタイルや窓ガラスが割れるなどの被害が予想されます。建築年が古い木造住宅などは倒壊する場合もあるといわれています。

図3²は、埼玉県にあると現在推定される活断層の分布図です。活断層とは、過去にその地域で大きな地震が数千年から数万年の間隔で繰り返し発生し、今後も同様に地震を引き起こすと考えられている、いわば大地の傷跡のことです。発生確率が小さく感じるかもしれませんが0%ではありません。

活断層による地震は、比較的地表に近い場所で起きるため、ひとたび発生すると大きな被害を引き起こす可能性があります。

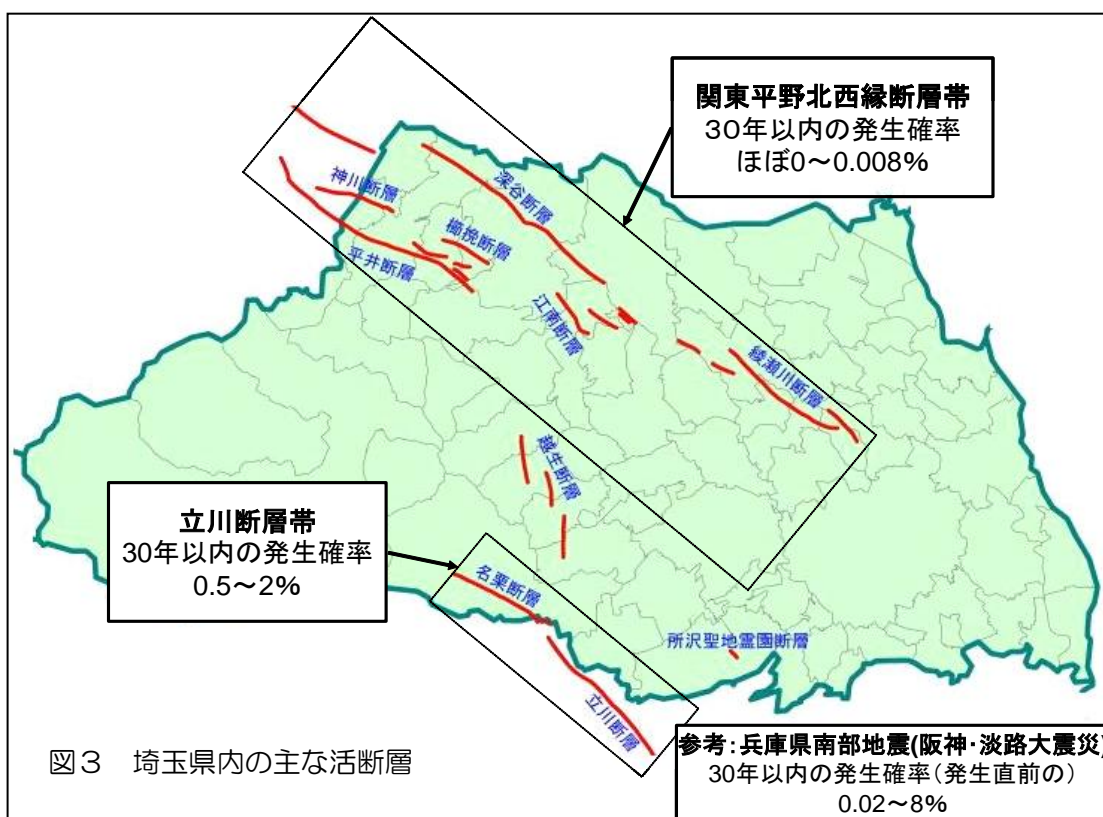


図3 埼玉県内の主な活断層

² 地震調査研究推進本部「長期評価」に基づき作成

●地震発生時の行動

◆まず身の安全の確保を

丈夫なテーブルや机の下に身を伏せて、揺れがおさまるのを待ちましょう。テーブルなどが近くにないときは、座布団やクッションで頭を守りましょう。

まずは、自分の身の安全を守ることが大切です。



◆火の始末を

揺れの小さな時にはすぐに、大きな時には揺れがおさまってから火を消します。あわててやけどをしないように落ち着いて火の始末をしましょう。

また、ガスの元栓を閉め、念のため電気のブレーカーを切りましょう。



◆ドアや窓を開け出口を確保

地震でドアや窓がゆがんで開かなくなることがあります。外に避難できるように出口を確保しましょう。その際、ドアや窓が再び閉まらないように手近なものを挟み込んでおくとよいでしょう。

エレベーターに乗っている場合には、すぐに全ての階のボタンを押しましょう。開かなくなってしまったら、あわてずに非常ボタンを押し、救助を待ちましょう。



◆火が出たら素早く消火を

火災が発生したら素早く初期消火にあたりましょう。「火事だ!」と大声を出して、周りの人たちに助けを求め、火災が大きくならないうちに消しましょう。もし、火が大きくなり、天井など周囲に燃え移りそうな場合は、あわてないで、ただちに逃げましょう。



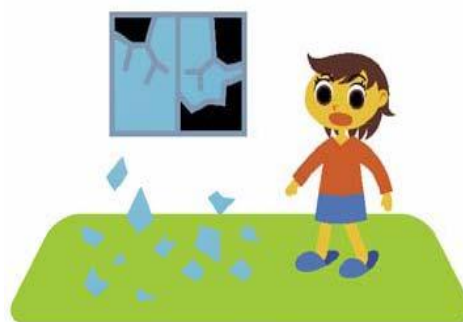
◆あわてて外に飛び出さない

あわてて外に飛び出すと、瓦や窓ガラスの破片などが落ちてきて思わぬケガをすることがあります。周りの状況をよく確かめて、落ち着いて行動しましょう。

◆室内のガラスの破片に気をつける

割れたガラスの破片などでケガをする恐れがあります。室内であっても靴を履くか、スリッパや厚手の靴下を必ず履くようにしましょう。

ガラスが飛び散らないように、すぐにカーテンを閉めるとよいでしょう。



◆塀や自動販売機などには近づかない

ブロック塀や自動販売機などが倒れてくると下敷きになる恐れがあります。地震が起きたらすぐにブロック塀などのそばから離れましょう。



◆正しい地震情報の収集を

デマなどに惑わされると、誤った行動で被害を拡大させかねません。テレビやラジオ、防災行政無線などから正しい情報を得るようにしましょう。



●揺れがおさまったら…

◆安否の確認を

まず、家族など一緒にいる人の安否を確認しましょう。また、隣近所に住む方々にも声をかけるようにしましょう。特に、体の不自由な方やお年寄りには注意を払いましょう。

◆助け合いを

体の不自由な方やお年寄りの避難を手伝ったり、耳の不自由な方に災害情報を知らせるなど、近くに住む人々が、自分でできる範囲で助け合うことが大切です。